

令和5年度 多摩市立西落合小学校 学校評価書

学校教育目標	
憲法・教育基本法の精神を尊重し、自主性と創造性に富み、平和的な国家及び社会の形成者として、人間性豊かで、思いやりのある、心身共に健康な児童の育成を目指し、以下の目標を設定する。 ◎考 える 子 (社会適応力) :自ら学ぶ意欲をもち、時代の変化や社請会の要に対応できる力を育てる。 ○助け合う子 (人間形成力) :生命尊重を基盤として、互いの人格を尊重し合い、豊かな人間性を育てる。 ○元 気 な 子 (行動実践力) :自らすすんで、健康の保持・増進及び体力の向上を図る能力と態度を育てる。	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
『笑顔がいっぱい、西落合小学校』～共に生き、共に学び、一人一人が輝く「笑楽幸(しょうがっこう)」～ ○共に生き、共に学び、一人一人が輝く学校 ○毎日、笑って、楽しく、幸せになれる小学校「笑楽幸(しょうがっこう)」	
目指す子ども像	目指す教師像
○意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる子ども ○しっかり話を聴く、最後まで聴く、規律正しく整然とした態度で学習する子ども	○心ひとつに、「率先垂範」「凡事徹底」「知覚動考」で日常の指導にあたる。 ○授業力・指導力を向上させ、安定した学年・学級経営を営む。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	○各学年で習得すべき基礎的・基本的な事項の確実な定着を図る。 ○自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力を育成する。		
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営連絡協議会委員の意見
授業のねらいに即して「何ができるようになったか」等の振り返りを通して、主体的に学ぶ態度を育成する。 <90%>	4	ねらいを明確にして、学習のめあてを板書等で分かりやすく児童に明示している。振り返りの工夫・改善を図ることで、今後も分かる授業の実践に努めていく。	A ・授業の最後に振り返りをするのは、児童、教師共にとても大事な事だと思ふ。時間が足りない時もあるかもしれないが続けてほしい。 ・学校公開などで授業を見学してもらい、様々な工夫が学習に取り入れられていた。授業が、集中できる場になっていることが、理解力につながっていると感じた。 ・子どもたちがタブレットを普通に使いこなしている様子を拝見し、本当に定着していると思った。 ・グループ学習で発表したり、国際交流でタブレットを使って教えたりと、楽しく学習することへの意欲に活用できていると感じている。今後は、タブレットとのバランスが気になるところである。 ・小学校で学んだ取り組みや経験の中で、探究心をもって進んでほしいと思う。18番目の目標は、地域活動にもつなげたい。
児童一人1台のタブレット端末等を活用し、日常的にタブレット端末を使うことにより、情報活用能力の育成を図る。 <90%>	4	タブレット端末を活用した授業は、様々な場面で実施している。学年に応じた基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を心掛けている。	A
SDGsを踏まえたESDの充実及び見直しを図り、主体的に課題を追求する等の授業改善に取り組む。 <90%>	4	課題解決学習を行う中で、話し合い活動を重視している。児童の多様な考え方の中から、児童自身の考えを広げさせていく授業を積極的に取り入れている。	A
評価のまとめ	・全教員が年2回以上「授業公開」を実施し、教員の授業力向上が図られている。 ・児童の基礎学力が身に付いているに關してのアンケートでは、88%の保護者より肯定的な評価をもらっている。 ・ESDに關しては、今まで行ってきた指導内容を見直し、本校の特色となる授業を継続して行うことができています。 ・分かりやすい授業に關して、アンケートでは89%の保護者より肯定的な評価をもらっている。		

(2) 豊かな心の育成

重点目標	○温かい心と互いを思い合う心、強い心や責任感を育てる。 ○自他の生命を大切にすることを養う。		
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営連絡協議会委員の意見
ウェルビーイングの実現に向けて、自分の大切さと他の人の大切さを認め、人のために行動できる豊かな人間性を養う。 <90%>	4	思いやりのある豊かな人間性と道徳的実践力のある児童を育成する中で、様々なところで学び合いがあり、温かい人間関係を醸し出すことができています。	A ・取り組みとしては、しっかりやっていると。ただ、時代のせいかもしれないが、校内ですれ違う子どもたちからの挨拶は、数年前から比べるとほぼない印象である。彼らにとって「知らない人」なので、ある意味防衛力がついているともいえるが、温かい人間関係としては少し寂しい気がする。コミュニティ内で円滑であればよいのかもしれない。 ・先日5年生と幼児の交流の時に、小学生の幼児に対する思いやりの姿勢が随所にあつたと、報告があつた。思いやりのある豊かな心が育っていると。道徳科の授業を要として、全ての学年で「生命の尊重」「規則の尊重」「いじめ防止」を重点に指導し、自他の生命を大切にすることを養うことは、とても大切に難しいことである。保護者の理解と協力、学校との連携がとれているのかと思う。 ・個性の尊重や多様化が進む中で、地域社会との関わりでも、目をかけ、強化していきたい。
学級の安定化を促進し、確かな児童理解に基づき児童にとって「安心できる学級づくり」の推進を図る。 <90%>	4	学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、学級経営の充実を図っている。	A
誰一人取り残さない教育の実現に向け、「いじめを生まない、許さない」を基本とし、いじめのない学校づくりを推進する。 <90%>	4	いじめ防止対策委員会において共通理解を深め、児童アンケート等により児童の声なき声に耳を傾けている。	A
評価のまとめ	・児童のきめ細やかな状況把握や教員間の情報共有、学校全体での組織的ないじめ未然防止、早期発見、早期対応の取組を今後も充実させていく。 ・いじめに關しては、年間5回以上のアンケート調査を実施して、子どもたちの声を聞いている。解決困難ないじめは発生していない。思いやりや優しさに關してのアンケートでは、91%の保護者より肯定的な評価をもらっている。		

(3) 健やかな体の育成

重点目標	○たくましく生きるための「健康・安全」や「体力の向上」を図る。 ○自らの目標をもって自己を肯定し、自ら最善を尽くす意欲と態度を育む。		
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営連絡協議会委員の意見
「学校2020レガシー」の取組の継続と充実を図り、「社会貢献」の心を醸成することを目指す。 <90%>	3	障がい者理解を促進するため「心のバリアフリー」を子どもたちに継続的に浸透させ、障がいのある人や外国の人たちへの理解を深めている。	A ・平日頃より、自助を指導している中で、今後も地域でも見守りや情報交換の場を中心に顔の見える活動を連携し、共有していきたい。
基礎体力の向上を図り、自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。 <90%>	4	クラス遊びや仲よし班遊び、休み時間等で、体を動かす時間を可能な限り確保している。体力づくり週間では、めあてを意識させて取り組ませた。	A
健康や安全に關する意識を高め、児童自らが判断し、命を守る意識をもたせる等、安全指導・健全育成に万全を期す。 <90%>	4	保健指導や安全指導の充実を図り、健康で安全に過ごすために必要な知識や行動の仕方を理解させている。	A
評価のまとめ	・インクルーシブ教育の推進を図り、障がいの有無に関わらず、すべての子どもが一緒に学び、基礎的環境整備や合理的配慮により、学級環境の整備とユニバーサルデザインの授業の確立を目指す。 ・具体的な体力向上策を設定し、運動を楽しみながら行わせることができた。全校で取り組むことによって、とても充実している。体力向上に關するアンケートでは、87%の保護者より肯定的な評価をもらっている。		

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	○教師と保護者が共に育み(共育)、力を合わせて育むこと(協育)で、子どもを取り巻く社会全体が響き合い育むこと(響育)ができるようにする。 ○学校と家庭、地域全体で子どもへの思いが調和できるようにする。			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
学校の特色を見つめ直し、教育活動に生かすことで、学校や地域への誇りを持ち、子どもたちが自信をもって生きていけるようにしていく。	4	学校運営協議会に児童を参加させる等により、直接子どもの声を聞いていただき、具体的事象を中心に、協議会にて意見交換等を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、立派な姿を拝見できるのが楽しみである。 ・西落合小学校は、地域に開かれ、地域における学校としての役割を果たしている。学校運営協議会で、児童が発言している姿からも自信をもって役割を果たそうとする姿勢が見られた。 ・毎回、緊張感の中での発表は、貴重な時間だと感じている。地域行事、活動などでも経験や関わりを持ち、子どもたちの自己肯定感や自信につながるよう、声掛けや応援をしていきたい。 ・放課後教室などでは、子どもたちのたくさんの思いやりや問題解決をする姿を見たり、感じたりすることができた。地域行事でも周りに協力する姿勢が見られて頼もしく感じている。
「コミュニティ・スクール」として、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりを推進し、人との関わりを大切に活動を進めていく。	3	学校運営協議会委員と共に学校づくりを行い、学校応援団をはじめ地域の人材や施設等を活用した協働的・探究的な学習活動を今後も展開していく。	B	
地域連携コーディネーターを窓口として、地域支援者の協力を得て、学習支援活動を推進し、児童の学習環境の改善を図る。	4	地域未来塾や学習支援、学校応援団主催の各種検定を年間6回行う等で、学習の成果を子どもたちの目に見える形で実感させている。	A	
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の中で行う6年生からのプレゼンも恒例化している。 ・運営協議会での情報を積極的に学校HPに掲載している。 ・地域未来塾に関しては、2年生からの参加としたため、参加者が増え、充実した。 ・検定関係は、漢検や算検、英検 Jr.に対して、年間各2回ずつの実施を予定通り行うことができ、保護者からも好評を得ている。 			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上~100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上~90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上~70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

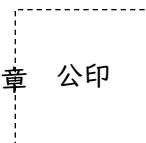
2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりを持続的に推進していく。 ・一人1台端末を学習の内容や場面に応じて効果的に活用し、情報活用能力の育成を図っていく。 ・各教科の指導を通して、学力向上を図り、意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる児童の育成を目指していく。 ・自分の大切さと他の人の大切さを認め、人のために行動できる力を育成していく。 ・様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決する活動を充実させる。 ・道徳科での深い学びとして、児童自身が「自分はこうありたい、そのためにはこのような思いを大切にしたい、このような課題を解決したい」などの願いをもてるようにさせていく。 ・学級の安定化の促進と児童理解に基づく、一人一人の児童が安心できる学級づくりを行っていく。 ・学校の特色を見つめ直し、学校や地域への誇りをもたせ、子どもたちが将来に向けて自信をもって生きていけるようにしていく。 ・誰一人取り残さない教育の実現に向け、いじめ・不登校等の生活指導上の諸課題に対する組織的な対応の充実を図っていく。

以上のとおり報告いたします。

令和6年3月1日

多摩市立西落合小学校 校長 池田 泰章 公印



令和5年度 学校評価書



多摩市立西落合小学校